# はつトピ！

はつかいちの旬な話題を提供します

食べる力を応援します

## 7/20 食事の困りごと相談

はつかいち暮らしと看取りのサポーターでは、食べられない、むせる、栄養が心配、調理方法や食事介助の方法など、食事に関するさまざまな困りごとを、毎月20日に専門職や介護経験のあるボランティアなどが一緒に考えサポートする活動をしています。

9月からは、山崎本社 みんなのあいプラザ、ゆめタウン廿日市を相談会場として、相談支援機関と連携しながら、「食べる力」や「食べる楽しみ」を支えていきます。

ゆめタウン廿日市の相談会場で食事の相談に応じるボランティア

メダリストが記念講演

## 7/30 地御前地区自治会が創立45周年

地御前地区自治会創立45周年記念式典が開催され、子どもたちを含む130人が参加しました。

吉本恒雄会長は、「45周年を迎えられることに感謝したい」と挨拶。地御前出身の東京五輪アーチェリー男子団体銅メダリスト河田悠希さんが講演し、後輩らに「夢を持とう」と語りました。メダルを触ってもらい、アーチェリーの実技も披露。地御前小6年の牧島柚葉さんは「河田選手にアーチェリーを習いたい」と話しました。

河田選手にメダルをさわらせてもらう子どもたち

家族連れなどでにぎわいました

## 7/31 涼しい吉和でマルシェ開催

吉和地域内外の交流を創出するイベント「よしわココマルシェ」が廿日市市の吉和魅惑の里で開かれました。廿日市市吉和の事業者などで構成される「吉和ココから塾」が主催で、吉和産の野菜や加工品のほか、子ども向けのワークショップなども出店し、市内外からの多くの人でにぎわいました。

吉和地域は、この日30度を下回り過ごしやすく、バーベキューや川遊びなど、夏のレジャーを楽しむ家族も見られました。

吉和地域で栽培されたイチゴを使ったオリジナルスムージーも人気でした

広島ガスと協定締結

## 8/1 電力の地産地消で二酸化炭素排出低減

「特定送配電事業に関する基本協定」を広島ガス株式会社と締結しました。広島ガス廿日市工場で発電した電力を廿日市市役所、廿日市浄化センターに自営線を介して送配します。これにより二酸化炭素排出量の低減、災害に強い体制の構築、電気料金の削減が期待されます。

松本市長は「電力の地産地消の取り組みで、持続可能なまちづくりの実現に向けた大きな一歩である」と話しました。

協定を締結した広島ガス株式会社松藤健介代表取締役社長（写真左）と松本市長

吉和のひまわりがお出迎え

## 8/13 吉和夏まつり 3年ぶり通常開催

吉和地域最大のイベント「吉和夏まつり」が開かれました。

コロナの影響で直近2年間は規模を縮小していましたが、今年は通常どおりの開催です。第1部では一面に咲いたひまわり畑にて「ひまわりの摘み取り」などがあり多くの人が楽しみました。第2部ではステージ演出が行われ、地元のフラダンスグループや神楽団などが盛り上げました。まつりを締めくくる3000発の打ち上げ花火が夜空を彩り圧巻でした。

ひまわりは、7月末の大雨や風で倒れながらも、懸命に花を咲かせていました

## マイナンバーカードの申請はお済みですか？

最大2万円分のマイナポイントを取得するには、**9月30日まで**にマイナンバーカードを申請し、来年2月末までにポイントの申し込みが必要です！

**◆申請でノベルティも！**

廿日市市役所1階ロビーや各市民センターなどの臨時窓口で、申請をサポートしています。カードに載せる写真の無料撮影を行うほか、申請サポートを受けた人に、数量限定でマイナちゃんのイラスト入りのオリジナルチャックポーチとカープとコラボデザインのオリジナルマイナンバーカードケースを配布しています。

▶臨時窓口での申請の様子

# ―― 3年ぶりの、熱狂

**写真_1** ワークショップでけん玉に色を塗ってオリジナル作品を製作中 **写真_2** 女子の部で優勝した鏡堂野々夏選手 **写真_3** けん玉での交流を楽しむ子どもたち **写真_4** 大人から子どもまで参加し、技の成功に歓喜した **写真_5** 決勝で全ての技を成功させた五十嵐拓哉選手 **写真_6** 選手が技を成功させるたび大きな拍手 **写真_7** 年代別表彰

▲優勝した五十嵐選手。トロフィーを掲げ、喜びをかみしめた

ウッドワンけん玉ワールドカップが、グローバルリゾート総合スポーツセンター　サンチェリーで7月30日、31日の2日間にわたって開催された。令和元年（2019年）以来3年ぶりの現地開催。オンラインも含め、13カ国・地域から725人が参加し、互いの技を競い合い、会場は熱気に包まれた。

初日の予選大会は、選手それぞれが自ら選択した10の技に3分の制限時間内で挑戦。技のレベルに応じて得点が加算され、40人が決勝へ進出した。また、木材を使ったワークショップも開かれ、けん玉に色を塗ったり、組子や箸を作ったりして、子どもから大人まで多くの人で賑わった。

2日目は決勝大会。3分間で10以上の技を披露する。舞台の上で繰り広げられる難易度の高い技に観客は息をのみ、決まると大歓声があがった。

頂上をつかんだのは、東京から来た中学3年生、五十嵐拓哉選手（15）。24の高難度の技を、冷静に、そして着実に成功させていく。そして最後の技が決まった瞬間――地鳴りのような拍手、会場は熱狂につつまれた。五十嵐選手は喜びを爆発させた。史上初の2度目の優勝。「まさか自分が優勝するなんて」とはにかんだ。

県内出身では、大江壱輝選手（16）が最高で6位だった。